

令和8年度 第1回学校運営協議会 記録

1 期日 令和8年6月9日（火）午前10時から正午まで

2 会場 静岡県立浜松視覚特別支援学校 会議室

3 参加者

学校運営協議会委員

○静岡大学 准教授 A氏

○一般企業 代表取締役 B氏

○NPO 法人 就労継続支援施設 代表理事 C氏

○前浜松市視覚障害者福祉協会会長（浜松ロービジョンの会会長） D氏

○視能訓練士 E氏

○地区自治会長 F氏

○PTA 会長 G氏

本校教職員

○校長、教頭、事務長、幼小小学部主事、中学部主事、高等部主事、普通科主任、
専攻科主任、教務主任

4 内容

10:00 開会（日程説明、自己紹介、委員の委嘱）

10:15 校内参観

11:00 全体会

（1）令和8年度学校経営計画について

（2）学校いじめ防止の取組について

（3）学校課題解決に向けて

「信頼され、ウェルビーイングを実現する学校」のためのアイデア

12:00 閉会

【全体会】

○学校運営協議会について：教頭より

コミュニティ・スクールは、地域と学校がパートナーとなり、学校だけでは解決が難しい課題について地域の力を生かしながら、よりよい学校づくりを進めていく仕組みである。委員から多くの意見をいただきたい。

(1) 令和8年度学校経営計画について：校長より

学校教育目標、目指す学校像、具体的な取組、成果目標等の説明

令和7年度からの変更点として、教育目標「よりよく生きるために」の前に「未来に向かって」を加えた。子どもたちが自分自身の未来を考えながら、本校で学んでほしいという願いを込めている。

本年度の重点的な取組として、以下について説明

- ・学部ごとの専門性向上に向けた校内研修
- ・防災体制の見直し
- ・人権意識の向上
- ・専門機関としてのセンター的機能の充実
- ・地域資源の活用や交流の推進
- ・学校の魅力発信
- ・働き方改革

<質問、意見、感想等>

(E氏)

浜松視覚はセンター的機能として、地域の学校に在籍するロービジョン児童生徒への支援を行っているが、学校現場での支援内容には差がある。

地域の学校を訪問した際、視覚障害教育の専門性が十分に生かされていない場面があり、課題を感じた。本校の専門性を地域へさらに広げ、学校間のつながりを強めてほしい。

(幼小学部主事)

地域の学校では、ロービジョンの児童生徒への配慮が、テスト時間の延長や教材の拡大だけになっている場合もある。現場レベルでどのような支援ができるか考えていきたい。

(校長)

限られた人数の中で可能な支援を行っている。地域全体の視覚障害教育の質を高めるためには、教育委員会や学校管理職の理解も必要であり、県へ人的配置について要望している。

(C氏)

「未来に向かって」という言葉について、子どもたちが未来に期待を持てるような具体的な取組について教えてほしい。

(校長)

全校集会のような場面で子どもたちと一緒に教育目標を共有する中で、未来に向かってワクワクした気持ちになるように、児童生徒中心で考えていきたい。

(E 氏)

近年、ロービジョン当事者によるアプリ開発やカルチャースクールの開催など、新しい活動が広がっている。こうした事例を紹介することで、子どもたちが将来の可能性を感じられるのではないかな。

また、卒業後に困ったときに相談できる場所があることを伝えることが、子どもたちの安心感や勇気につながる。

(学校経営計画について承認)

(2) いじめ防止の取組について：教頭より

本校ホームページにも掲載しているいじめ防止基本方針について説明

「いじめは絶対に許さない」という共通理解のもと、早期発見・早期対応を大切にし、未然防止として豊かな心の育成に力を入れていく。

(3) 「信頼され、ウェルビーイングを実現する学校」のためのアイデアについて：教頭より

交流活動や地域資源の活用について説明した。B氏が代表取締役を務める会社主催のイベントなど、地域とのつながりが子どもの育成に大きく貢献している。また、生徒数減少を踏まえ、学校の魅力をどのように発信していくかが課題である。

(4) 各学部の現状と課題について：各部主事・主任説明

(幼小小学部)

本校は地域の方に十分知られていない現状がある。

本校の畑を市民農園のように地域へ開放し、地域の方と児童が交流する機会をつくりたい。また、月1回程度でも読み聞かせなどで地域の方に学校へ来ていただき、児童が様々な人や社会に触れる機会を増やしたい。

(中学部)

中学部では、公民館清掃など地域と関わる活動を行っている。

作業学習ではペットボトルやアルミ缶の回収に取り組んでおり、地域の資源回収など、地域と連携した活動へ発展させていきたい。

(普通科)

卒業後の進路を考える時期が近い中で、生徒が自分の暮らす地域について知る機会が少ないことが課題である。

総合的な探究の時間では、浜松の楽器産業やものづくり、スポーツなどを題材に、地域とのつながりを意識した学習を進めている。

また、校内カフェや委託作業を通して、地域との関わりを広げている。地域の方からの協力をお願いしたい。

(専攻科)

進路指導では、校外学習や臨床実習を通して、地域や企業との関わりを大切にしている。

また、本校を知ってもらうため、YouTube、ハローワーク、ラジオ等を活用した情報発信にも取り組んでいる。

地域で生活する視覚障害のある方が、本校で相談できることを広く知ってもらいたい。乳幼児期からの相談窓口としての役割も担っている。

<質問、意見、感想等>

(B氏)

企業の取組のように、「ここにしかない」という特色をつくることが大切である。本校についても、他校にはない専門性や技術を明確にし、「浜松視覚に入学すれば、このような力が身に付く」という魅力を発信することが必要である。

また、単なる学校紹介ではなく、「将来にどのような可能性があるのか」が伝わる発信が大切である。

(A氏)

静岡大学でも情報発信に力を入れており、大学を選ぶ際に何を学べるのかを伝えることを大切にしている。

本校についても、ホームページやSNS等を活用し、校内カフェやドラム演奏の様子など、学校の魅力を積極的に発信していくことが必要ではないか。

(F氏)

小学部の畑活動について、収穫時期を早めるなど地域との交流につながる工夫ができるのではないか。

また、地域企業の見学や、フロアバレーボール等の活動について、写真だけでなく動画を活用することで、より学校の様子が伝わるのではないか。

(D 氏)

「オレンジスマイル」という団体で、ブラインドテニスやテーブルテニスの活動を行っている。浜松視覚の児童生徒に、体験会へ参加してほしい。六葵祭など学校行事との連携していきたい。

また、東洋医学に関するセミナーなど、地域向けの取組を実施することで、本校の専門性を地域へ発信できるのではないかな。

(G 氏)

地域の小学校では、読み聞かせボランティアをしている方がいる。本校でも地域の方が関われる活動があるとよい。

また、学校公開等を通して、地域の方に本校を知ってもらう機会を増やすことが大切である。

<質問、意見、感想等>

(B 氏)

企業においても、選ばれるためには理念や特色を発信することが重要である。学校においても、子どもたちが将来を描けるような魅力ある学校づくりが必要である。

(A 氏)

学校の取組について、より多くの人に知ってもらうための情報発信が重要である。特に、日々の活動や生徒の様子を動画や SNS 等で発信することで、学校の魅力が伝わりやすくなるのではないかな。

(F 氏)

地域との連携について、企業や地域団体と協力できる可能性がある。具体的な取組につながるよう、地域とのつながりを大切にしてほしい。

(D 氏)

視覚障害者スポーツを通じた交流や体験の場を広げ、生徒が地域と関わる機会を増やしていきたい。

(G 氏)

地域の方が学校を知ること、支援や交流につながる。学校を地域へ開いていくことが大切である。

(教頭)

いただいた意見については、今後の学校運営に生かしていきたい。

(校長)

今回は学校からの説明が中心となったため、次回は委員の皆様からより多くの意見をいただく時間を大切にしたい。

今後も気付いたことがあれば、随時意見をいただきながら、可能なことから実現していきたい。